

開園以来59年が経過する中、子どもと子育てを取り巻く環境はもちろん、児童養護施設の置かれた状況も大きく変化してきた。この間に愛童園から社会に巣立った、あるいは家庭等に復帰した児童は329名を数える。

近年、子どもや家庭をめぐる課題は複雑化、深刻化しており、特に親の離婚、貧困や子どもの発達障害などを背景として、個々の児童の特性に配慮した細やかなケアが求められる入園児が多くなっており、職員には高い専門性とケアワークが求められている。また、国の「新しい社会的養育ビジョン」を受けた施設の小規模化、高機能化、多機能化への取り組みも喫緊の課題となっている。加えて、本年度は、新型コロナウイルス感染症への感染予防を踏まえた施設運営が求められることとなった。

このような状況のなか、愛童園は、児童の最善の利益の実現のために、関係機関や地域社会と連携を図りながら、児童の幸せと心身の健やかな発達成長を見守り、社会的な自立に向け、次のとおり取り組みを進めた。

◎令和2年度事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

(1) 児童の権利擁護

- ① コロナ禍で、各種行事の中止が相次ぐなか、Web研修など職務に影響のない範囲で研修に参加させるなど、人権感覚を磨き、養育者としての倫理観や責任感を持って児童に対応できるよう資質の向上を図った。
- ② 日々の養育のなかで「こどもの最善の利益」を常に意識して養育にあたるとともに、児童からの意見の聞き取りや意見箱の設置等により、児童の意見を表明できる環境整備に努めた。

(2) 児童の養育・支援

- ① 在園児童の半数以上が心理療法を必要としており、発達障害や知的障害のある児童に対し、自立支援計画の中に児童の心理的支援目標を設定し、児童相談所や学校、医療機関等と連携した計画的な支援に取り組んだ。
- ② 日常的な生活援助と併せて、学習の定着を図るため宿題等の支援を積極的に行った。また、児童が自ら選択できるよう必要な情報の提供や助言を行うとともに、児童の希望したところに進学できるよう学校等と連携し支援を行った。
- ③ 自立生活が安定していない卒園生への助言、見守り支援を継続して実施するとともに、コロナ禍の緊急支援事業を活用し生活物資の送付などの支援を実施した。

◆被虐待児個別対応相談員の活動状況

- 個別対応児童数 9名
- 個別対応年間実施日数 28日
- 1日当たり平均実施時間 45分
- 支援会での情報共有、心理担当職員との連携及び職員会での連絡

◆令和3年3月に中学校、高校を卒業した児童の進路状況

児童	区分	性別	進学	就職	進路等の状況
1	中学	男	○		県立高知江の口特別支援学校高等部
2	中学	男	○		県立城山高等学校
3	中学	女	○		県立山田高等学校
4	高校	女	○		平成福祉専門学校
5	高校	女		○	多機能型事業所ワークチャンス

(3) 家庭支援の強化

- ① 児童と家庭の関係づくりのために、面会、外出、一時帰宅などを児童相談所と調整し、コロナ禍のなか可能な範囲で実施した。
- ② 児童相談所や家族の居住する市町村とのサポートケアなどを踏まえ、家庭支援専門相談員を窓口とした家族への働きかけや家族からの相談を受けるなど、児童と家庭との関係調整を図った。

(4) 事故防止と安全対策

- ① 事故防止マニュアル、事故事件等対応マニュアルに基づいて対応し、ノロウイルス感染症等の流行期には予防措置を徹底した。また、新型コロナウイルスへの感染予防のため、手洗い、咳エチケットの徹底等に取り組んだ。
- ② 防災対策マニュアルに基づき消火訓練、避難訓練を定期的実施した。
- ③ 園内研修として警察署員を講師に招き、防犯講習を実施し、不審者への対応方法、留意点などを確認するとともに、交通安全についても毎職員会において意識の徹底を図った。

(5) 社会的養育の推進

- ① 家庭的養護の推進には、職員による養育の質の向上が不可欠であり、分園型施設の建築計画を通して、家庭的養育の必要性について理解を深めた。
- ② 「高知県社会的養育推進計画」を踏まえ、今後10年間での施設の小規模化、高機能化等の指標となる「愛童園社会的養育推進計画」を9月に策定した。また、小規模化の取り組みとして、園舎近隣にある職員宿舎において分園型小規模グループケア、2ユニットを整備するための改修工事に12月から着手した。
- ③ 里親関係の各種会合、研修会に参加するとともに、香南市保健師との勉強会を開催するなど里親支援体制の強化を図った。また、関係機関と連携のもと里親実習生を受け入れ、里親育成にも努めた。

(6) 関係機関連携と地域支援

- ① 要保護児童対策地域協議会に参加し、見守りの対象となる児童や家庭の情報を共有して対策を協議し、実践に努めた。
- ② 学校との定期的な支援会の実施や児童相談所との連携のもと、児童の支援状況や家庭も含めての情報の共有に努めた。また、一時保護や子育て短期支援事業

(ショートステイ)の受け入れも行った。

◆一時保護委託の状況(受託先:児童相談所)

項目	利用実人員	延べ利用人員	延べ利用日数
令和2年度	3名	3名	46日
令和元年度	3名	5名	158日
平成30年度	3名	3名	26日

◆子育て短期支援事業(受託先:香南市、安芸市、香美市、芸西村、室戸市)

項目	利用実人員	延べ利用人員	延べ利用日数
令和2年度	2名	2名	8日
令和元年度	1名	1名	7日
平成30年度	3名	7名	9日

(7) 職員の資質と施設運営の向上

- ① 新型コロナウイルス感染症防止のため、Web研修など職務に影響のない範囲で研修の機会を確保し職員のスキルアップを図った。
- ② 外部講師による園内研修を実施し、施設に入所することになった児童や家庭の心理的側面の理解を深め、日々の処遇の向上を図った。

◆各種研修会等への参加状況

- 全養協関係 3回/4名 ○中四国養協関係 なし
- 県養協関係 1回/2名 ○各種専門研修 7回/10名
- その他 4回/13名

また、全員参加の園内研修(ノロウイルス対策、分離体験への対応、防犯)のほか、施設実習終了後「児童の処遇のあり方」について実習生反省会を兼ねた研修会などを実施した。

◆年度別児童・職員数

各年度3月31日現在

年度	28年度	28年度	29年度	30年度	2年度
定員(暫定)	30名 (28名)	30名	30名	30名 (29名)	25名
在籍児童数	24名	23名	22名	20名	20名
職員数	16名	17名	19名	19名	22名

※職員数:臨時・パートを含む

◆令和2年度 月別児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総数	21	21	21	21	22	22	22	22	22	22	22	22
入所	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
退所	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2

◆学年別児童数

令和3年3月31日現在

	就学前		小学校						中学校			高校			その 他	計
	3歳 未満	3歳 以上	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	1 年	2 年	3 年	1 年	2 年	3 年		
男	0	3	0	0	1	1	0	0	2	1	2	1	1	0	0	12
女	0	1	2	1	1	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	8
計	0	4	2	1	2	3	0	0	2	1	3	1	1	0	0	20

◆入所主訴理由別児童数

令和3年3月31日現在

入所理由	件数	構成比	入所理由	件数	構成比
父母の行方不明	1	5.0%	虐待	6 (3)	30.0%
父母の離婚	0	0.0%	経済的理由	2	10.0%
父母の拘禁	1	5.0%	精神疾患・入院	0	0.0%
父母の傷病・入院	1	5.0%	措置変更	5	25.0%
父母の養育困難	4 (2)	20.0%	その他	0	0.0%
			合計	20	100.0%

() 内は、措置変更児の当初措置理由

◆令和2年度主要な年間行事

- 4月 新年度編成
 - 5月 第1回中央児相サポートケア
 - 6月 第1回地域支援者会議、
 - 7月 七夕祭り、施設実習(龍馬学園)
 - 8月 日帰りキャンプ、消防訓練、施設実習(龍馬学園)
 - 9月 施設実習(高知学園短大)、中学校体育祭
 - 10月 第2回地域支援者会議
 - 11月 卒園旅行、小学校運動会、園内研修(ノロウイルス対策)
 - 12月 開園記念、第2回中央児相サポートケア、クリスマス会
 - 03/1月 お正月、消防訓練、園内研修(分離体験への対応)
 - 2月 節分豆まき、施設実習(高知福祉専門学校)、第3回地域支援者会議
 - 3月 卒園式、第3回中央児相サポートケア、園内研修(防犯)
- ※ 新型コロナウイルス感染症防止のため、事業の廃止・縮小を行った。